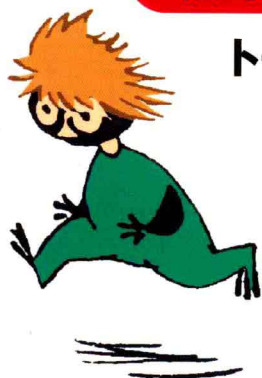


# ムーミン谷の



絵本・ムーミン谷から③

トーベ・ヤンソン◎絵  
Tove Jansson



# 大ごうずい

## トーベ・ヤンソン

1914年、フィンランドのヘルシンキ生まれ。絵を学ぶかたわら童話を書きため、1948年に「たのしいムーミン一家」（原題は「まもののぼうし」）を出版、大評判となる。その後つぎつぎに続巻を出し、「ムーミン童話集」として世界中で愛読されている。1966年、国際アンデルセン大賞を受賞。その後、国内外で数々の賞を受賞し、1995年フィンランド大統領からプロフェッサーの称号を授与される。

絵本・ムーミン谷から 3

ムーミン谷の大こうずい

1999年 1 月11日 第1刷発行

N.D.C.726 28p. 18cm

原作・絵——トーベ・ヤンソン

構成・文——岡村美恵子

カバーデザイン——城所潤（坂川事務所）

本文デザイン——角野哲

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部03(5395)3534

販売部03(5395)3625

製作部03(5395)3615

印刷所 図書印刷株式会社

製本所 大村製本株式会社

First Published in 1998 by Kodansha Ltd., Tokyo.

Japanese text ©1998 Kodansha Ltd. All rights reserved.

Printed in Japan

A picture book based on

FARLIG MIDSOMMAR Copyright ©1954

by Tove Jansson

Illustrations by Tove Jansson from

FARLIG MIDSOMMAR ©1954 by Tove Jansson

All rights reserved.

This edition Copyright ©1998 published by

permissions of Schildts Förlags AB, Esbo, Finland

through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.

定価はカバーに表示してあります。

本書の無断複写（コピー）は、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は、ごめんですが、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にておとりかえいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、児童局幼児図書出版部あてにお願いいたします。ISBN4-06-268503-5（児幼）



# ムミン谷の

絵本・ムーミン谷から ③

江苏工业学院图书馆  
藏书章

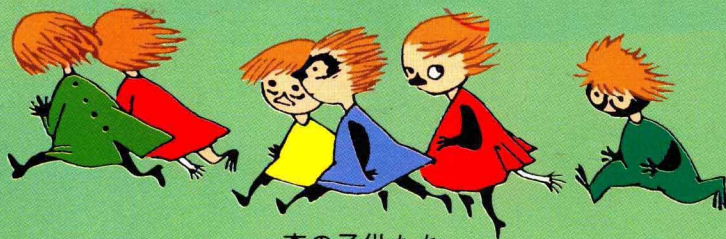
# 大ごうさい



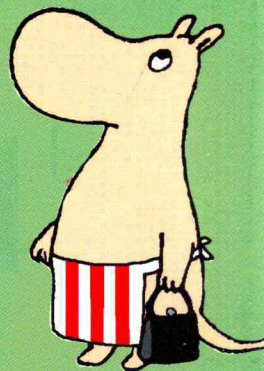
ムーミントロール



スナフキン



森の子供たち



ムーミンママ

ある日、ムーミンママは、木の  
かわで 小さな ふねを こしらえました。

ムーミンぼやが 池に うかべて  
あそべるような、かわいい ふねです。

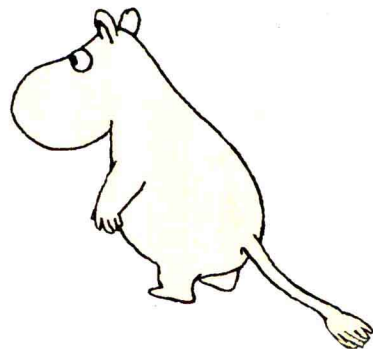
ミムラねえさんが たずねました。

「いもうとの ミイも のれるかしら？」

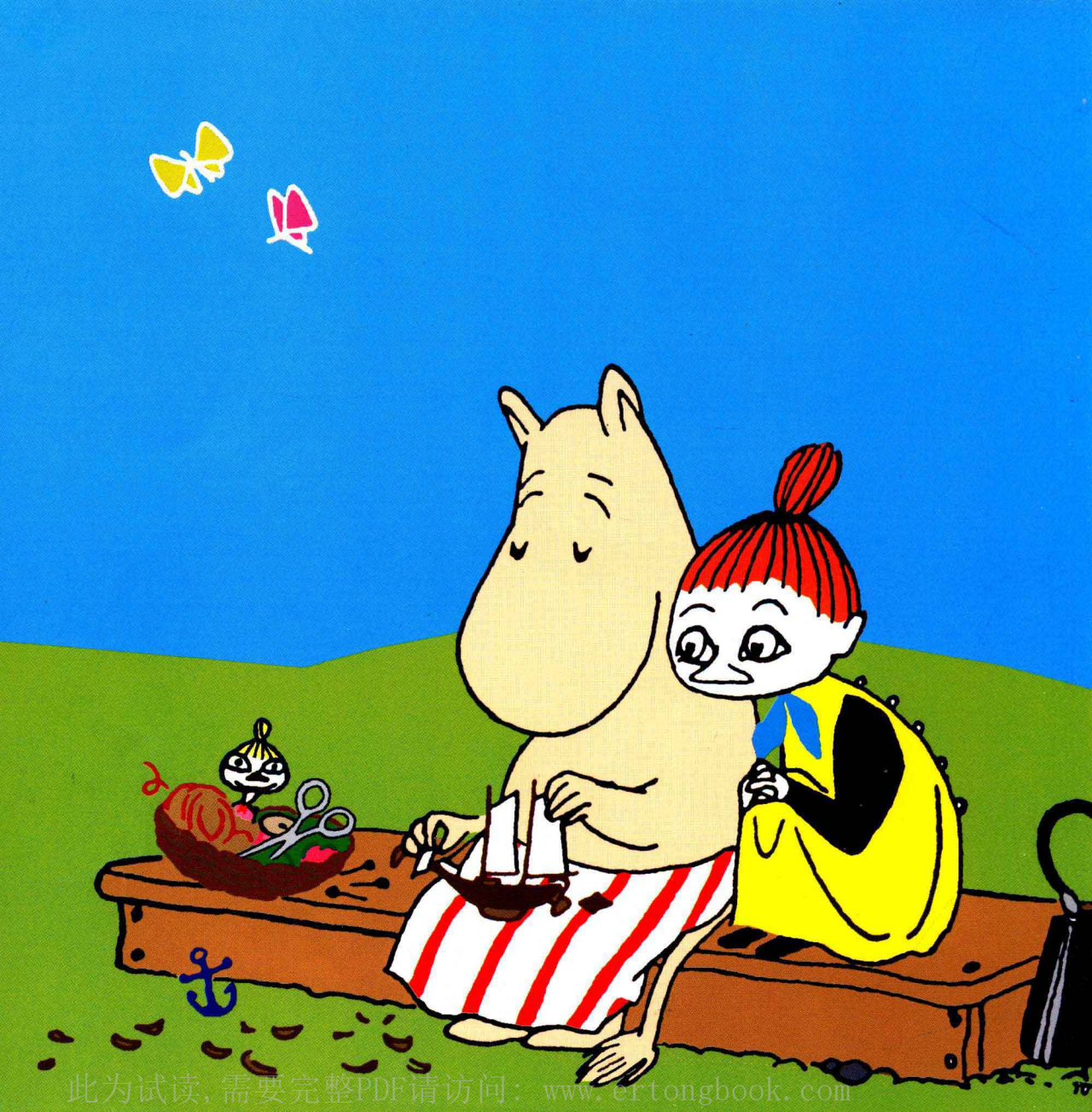
すると、ムーミンママの さいほうがごから、  
かんだかい こねが しました。

「あたしは ここに いるよ！」

ちびの ミイが かかれて いたのです。









そのころムーミンは、空<sup>そら</sup>を見<sup>み</sup>ながら  
池<sup>いけ</sup>のほとりでねそべっていました。

池<sup>いけ</sup>のまわりには、つやつやしたはっぱが  
しげっていて、みずすましやとんぼが  
はねをやすめています。

「スナフキン、どうしているかなあ。」

スナフキンがたびをおえて、そろそろ  
ムーミン谷<sup>だに</sup>にかえってくるころでした。

ムーミンは、だいすきなともだちに

あえる日<sup>ひ</sup>が、とてもまちどおしいのです。



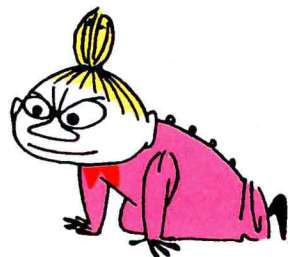


その よるは なんだか むしあつくて、  
ムーミン一家は <sup>いっか</sup>にわに でて いました。  
その とき、ちかくの しまの <sup>かざん</sup>火山が、  
くろい すすを ふきあげたのです。

とつぜん、ジャスミンの しげみが はげしく  
ゆれだし、じめんに ひびわれが できました。  
われめは どんどん ひろがって いきます。

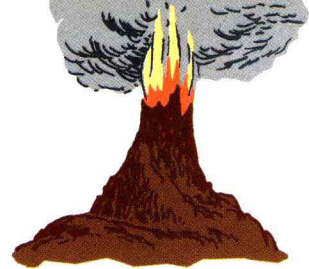
「あの <sup>かざん</sup>火山が ばくはつしたんだ！  
これから どう なつちやうの？」

ちびの ミイが さけびました。









とうとう、しまの火山<sup>かざん</sup>が あばれたして、  
じしんを おこしたのです。

はげしく ゆさぶられた 海<sup>うみ</sup>が、大<sup>おお</sup>なみを  
つくつて もりあがり、川<sup>かわ</sup>を ぐんぐん

さかのぼつて きました。

ムーミン谷<sup>だに</sup>に ながれこむ 水<sup>みず</sup>が、林<sup>はやし</sup>も  
森<sup>もり</sup>も つぎつぎに のみこんで いきます。

さあ、ムーミン谷<sup>だに</sup>は 大<sup>だい</sup>こうずいです！

ムーミンやしきも、この まま

おしながされて しまうのでしょうか。







あさに なりました。

ムーミンやしきは ながされずに  
すみました。でも、あたりは

いちめんの 海うみです。

だいどころは まるで 海うみの そこ。

いすや テーブルが、てんじょうの すぐ  
下したに ぷかぷか ういて います。

「ムーミン、もぐつて いて、ポットと  
コーヒーカップを とって きて くれる？」

ムーミンママが たのむと、ムーミンは  
大おおはりきり。スリルいっぱい の すてきな

あさごはんに なりそうなもの！





ムーミン一家は、やねの上で  
なんとか あさごはんを たべる

ことが できました。

「火山の ふんかは おさまったみたいだね。」

ムーミンパパが いいました。

けれども、ムーミン谷の水かさは、

どんだん まして いくばかりです。

いつまでも のんびりしては いられません。

ムーミンやしきの やねにも、水が

せまって きました。

ムーミンたちは、たかい 木に のぼって、

たすけを まつ ことに しました。







そのうち ムーミン一家は、とてつもなく  
大きな いたを 見つけると、ぜんいんで  
のりこみました。

海に なった ムーミン谷を、いたの

「ふね」は、ゆつくりと すべって いきました。

そのうち、ポチャンと 音が しました。

ミイが 水の 中に おちたのです。

小さくて かるい ミイは、しずまずに

どンドン ながれて いきました。

やがて、すぐ そばに ムーミンママの

さいほうかが うかんで いるのに 気が

つくと、すばやく それに とびのりました。



